

第17回学術大会、多職種連携で総合歯科教育の深化 (一社) 日本総合歯科学会



活発な討議が行われたシンポジウム。

2024年11月2日(土)、3日(日)の両日、ベネックス長崎ブリックホール(長崎県)において、第17回日本総合歯科学会総会・学術大会(角 忠輝 大会長、長谷川篤司理事長)が「総合歯科教育を楽しもう」をテーマに開催された。

シンポジウムでは小椋正之氏(前厚生労働省医政局歯科保健課長)の基調講演に続き、3名のシンポジスト(歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士)が講演を行い、歯科医療関係者間の連携の重要性があらためて確認された。特別講

演では、米永一理氏(日本大学)より漢方医学の活用について、柿崎陽介氏(宮崎県開業)より定期的な口腔管理が子どもの成長と食の改善に寄与することについて講演がなされた。教育講演として関 啓介氏(日本大学)が症例報告の学術的価値について解説し、白井 肇氏(岡山大学)が歯科医療の質向上に向けた医療安全の重要性を論じた。

一般演題発表も行われ、優秀口演賞は野村みずき氏(新潟大学)が受賞し、最優秀若手ポスター賞は増田実紗氏(長崎大学)、優秀若手ポスター賞は

後藤翔栄氏(九州歯科大学)と早川杏梨氏(新潟大学)が選ばれた。これらの発表では、患者のニーズに応じた歯科医療の実践や研究成果が紹介され、若手歯科医師の意欲と発展性を感じさせる場となった。

本学術大会では、歯科医療の未来を担う人材育成や地域に根差した医療の推進に向けた重要な示唆が得られた。参加者同士の交流をつうじて、新たな連携や研究の可能性が広がる場ともなり、総合歯科教育をより充実させるための有意義な大会となった。